# The Detection and Negative Reversion of Circulating Tumor Cells as Prognostic Biomarkers for Metastatic Castration-Resistant Prostate Cancer with Bone Metastases Treated by Enzalutamide


| メタデータ | 言語: English<br>出版者:<br>公開日: 2022-06-09<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 中村, 聡<br>メールアドレス:<br>所属: |
| --- | --- |
| URL | https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002816 |

授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 2529 号

Detection and negative reversion of circulating tumor cells (CTC) as a prognostic biomarker for metastatic castration-resistant prostate cancer(mCRPC) during ENZ treatment

エンザルタミド治療中の転移性去勢抵抗性前立腺癌(mCRPC)における血中循環腫瘍細胞(CTC)検出および陰転化の予後予測因子としての検討

中村 聡（なかむら　そう）

博士（医学）

| 論文審査結果の要旨 |
| --- |
| 本論文は、エンザルタミド治療を行った転移性去勢抵抗性前立腺癌症例において、血中循環腫瘍細胞(CTC)の治療開始時の検出の有無と治療後の陰転化の有無に着目し、生存期間との相関を解析することを目的とした研究である。CTC 解析には AdnaTest という前立腺癌では海外で最もよく使われているキットを使用しており、高額な装置を必要とせず、どこの研究室でも施行可能である。CTC 解析可能だった 35 例を対象に解析を行い、エンザルタミド治療開始時に CTC 陽性群が陰性群と比較して有意に OS が短い傾向を示した（P=0.013)。さらに、治療開始時 CTC 陽性群のうちエンザルタミド治療後に CTC が陰転化した群が陽性継続した群と比較して OS の延長に有意差があることを示した。(P=0.043)。多変量解析では CTC 陰転化の有無とエンザルタミド治療後 3 か月後の PSA 値と一次治療による PSA 最低値を変量に設定して解析を行い、CTC 陰転化の有無のみが有意差を認める因子であることを示した（HR1.021［95%CI; 0.9459-1.103］P=0.044)。末梢血採取による低侵襲な解析方法によって､エンザルタミド治療開始時の CTC 検出の有無および治療後の CTC 陰転化の有無が予後予測因子となることを明らかにした臨床的に意義のある論文である。<br>よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。 |